

はじめに

金沢大学大学院自然科学研究科は、国の大学院重点化施策の一環として2004年4月より部局化され、組織変更が行われた。その結果、旧地球環境科学専攻および旧システム創成科学専攻の所属教員が参加して環境科学専攻が発足し、これまでと同様に活発な研究活動を行ってきた。

自然科学研究科博士後期課程においては、環境科学専攻を含む六専攻が本学における理工系の最先端の研究活動を担ってきた。その中で、環境科学専攻は、自然計測、環境動態、環境創成、環境計画の四講座と、連携講座である環境触媒から構成され、私達の身近な生活環境から地球環境まで広範な領域を対象とし、理学、薬学、工学の諸分野が総合的に取り組み、諸現象の計測、解明、諸問題の解決方策の探求などを行ってきた。地球温暖化など地球環境問題の解明と諸問題への対応がグローバルな課題となってきた中で、これらの研究活動の役割は大きい。とくに、平成14年度からスタートしたCOEプログラム「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」には重点を置いて取り組み、世界トップの研究拠点の形成に向けて、着実な成果を生み出してきた。

本紀要は、環境科学専攻における教育と研究の成果の概要を示しているものであり、内容は、専攻の概要、公開講演、COEプログラムの研究活動、在学生の研究概要（第3学年以上の在籍者については、主任指導教員が環境科学専攻に所属している学生）、担当教員の解説的論文例（各講座主任により1, 2編ずつ提出いただいたもの）などを掲載している。それぞれの詳細な内容については、該当の担当者または専攻長まで問合せいただきたい。

2006年3月

環境科学専攻

専攻長 川上 光彦